

N 中央労福協 ニュース NEWS LETTER



労働者福祉中央協議会
NATIONAL COUNCIL OF WORKERS' WELFARE

発行人 南部 美智代

No. 221

〒101-0052

東京都千代田区神田小川町 3-8 中北ビル 5F

Tel. 03-3259-1287 URL <https://www.rofuku.net>



加盟労働団体トップ訪問 連帯と共創がよりよい社会を築く



意見交換の様子（写真左：全建総連との意見交換、
写真右：フード連合の中執での意見交換）

今年度も全国福祉強化キャンペーンの一環として、中央労福協・労働金庫運動中央推進会議・こくみん共済coop 中央推進会議の三者による労働団体訪問（トップ訪問）を実施しました。

この取り組みについては、各加盟労働団体を訪問し対面によって労働者福祉運動強化の要請を行うことはもとより、これから次代を担う人材の育成や多くの社会課題への対応など、多彩なテーマに関して幅広く意見交換を行う主旨で、今回で5年目を迎えました。

中央労福協からは伊藤敏行副会長（フード連合会長）と南部美智代事務局長がファシリテーターとして参画し、各福祉事業団体からの活動内容やコンテンツの紹介をベースに提案する形で進めました。その上で時代背景をふまえてそれぞれの労働組合からの意見・要望を聞きつつ、組合役員の世代交代や若年組合員へのアプローチなど、悩ましくも避けて通れない共通課題についても意見を交わすことができました。

具体的には、労働金庫やこくみん共済 coop の事業内容や独自で行う社会課題への取り組みを報告して理解を求め、組合員への利用促進を要請しました。現場では労働金庫関連では NISA や iDeCo などの投資や資産形成ニーズが強くあることや経理会計上の事故を未然に防止する施策の強化、こくみん共済 coop 関連では能登半島地震や豪雨など多発する自然災害になぞらえて「防災・減災」対策や自然災害保障の重要性などの話題で盛りあがりま

した。

また、中央労福協では「高等教育費負担軽減」の取り組みの最中であり、この間、加盟団体に団体賛同や個人署名の協力要請に積極的に応じていただいたことにも触れ、各組織からはぜひとも当該運動の前進がはかれるようにと、多くのエールをいただきました。

併せて、2025 年が2度目となる「国際協同組合年」であることから、協同組合や労働組合等が連帯してよりよい社会を創っていくという意気込みにも触れ、まずは「労働者福祉運動」がしっかりと世の中に認知されるような取り組みをめざしていかなければならない旨、訴求しました。

さらに昨年、中央労福協がフルリニューアルした「労働組合 会計・税務の基礎知識」の活用と全労働団体に保持いただいているファイリングバイnderのツール差し替えについてもお願いしたところです。

総じて組合役員の世代交代が進む中、これからも労働組合と福祉事業団体は組合員のために存在すると同時に「ともに運動する主体」であることを再認識し、お互いに進化していけるよう、共通の立場として確認を行いました。

No.221 Topics

2～3 面 加盟労働団体トップ訪問手写真一覧

4 面 IYC2025 コラム「国際協同組合年とは」

5 面 第 47 回 Web 学習会

「協同組合・NPO の連携で持続可能な地域社会を」

6 面 ろうふくエール基金・取り組みレポート（静岡）



2024 年度 加盟労働団体トップ訪問

● 10月15日（火）

交通労連、全水道、UAゼンセン、
全労金

● 10月21日（月）

全国農団労

● 10月31日（木）

国労、紙パ連合、メディア労連、
運輸労連、自治労、基幹労連

● 11月5日（火）

ヘルスケア労協

● 11月15日（金）

電機連合、JR連合、全駐労、電力総連、
全印刷、生保労連、ゴム連合

● 11月22日（金）

政労連、連合、全建総連

● 11月25日（月）

情報労連、退職者連合、サービス連合、
自動車総連、損保労連、全国ユニオン

● 11月26日（火）

JR総連、全国ガス、全自交労連、
森林労連、全農林

● 12月3日（火）

JP労組、日本医労連、労供労連、
労済労連、JEC連合

● 12月5日（木）

私鉄総連、JAM、フード連合、
全電線、日教組

● 12月9日（月）

全造幣

● 12月19日（木）

セラミックス連合

訪問日程
一覧表



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます

2025 国際協同組合年コラム

第 1 回

国際協同組合年とは

提供 2025 国際協同組合年全国実行委員会（事務局 一般社団法人日本協同組合連携機構）

ICYC2025

国際年をご存じですか。国連は 1957 年を国際地球観測年と定めたことをスタートに毎年何らかの「国際年」を設けています。これは、世界に共通する重要テーマについて、各国や世界全体が 1 年間を通じて呼びかけや対策を行おうとするものです。

【2025 年は国際協同組合年です】

こうした中で、2025 年は、国際協同組合年と定められました。2012 年に続いて、2 回目です。協同組合をもっと盛んにして、SDGs（持続可能な開発目標）（※）をもっと現実のものとするために、国連は協同組合を評価、重視し、期待を寄せています。また、国連と歩調を合わせて、世界各国の政府や協同組合に、国際協同組合年を活用することを求めています。

日本国内の協同組合においても事業・活動をさらに発展させ、協同組合に対する認知度を高めていく絶好の機会と捉え、政府や関係者の方々と協力しながら、この機会を活かしていきたいと考えています。

国際協同組合年は、協同組合の事業を利用する方、活動に参加する方、そして働く方を広げるチャンスとも言えます。

【協同組合を学び、事業や活動を実践し、発信しませんか】

これまでもこれからも、協同組合のことを広く知る、知ってもらい、そして共感や信頼につなげることが大切です。今こそ、次のような 3 つのステップで、協同組合を学び、事業や活動を実践し、さらにこれを発信しませんか。

1. 学んでみよう

- (1) 国際協同組合年について学び、共有してみよう
- (2) 協同組合とは何か、何を大切にしているか、どのように運営するか、あらためて協同組合らしさ（協同組合のアイデンティティ）を学ぼう

2. 実践してみよう

みんなで話し合い、つながりの輪を広げ、できることから始めてみよう

3. 発信してみよう

学んだこと、実践していることを発信してみよう。発信することで知ってもらい、地域のつながりの輪を広げましょう。

※SDGs（Sustainable Development Goals）は、2015 年 9 月の国連サミットで全会一致で採択された「持続可能な開発目標」です。キーワードは「Leave No One Behind（誰一人取り残さない）」。

2030 年を期限とする世界共通の 17 の目標を設定して、貧困や飢餓、暴力を撲滅し、地球環境を壊さずに経済を持続可能な形で発展させ、人権が守られている世界を実現することを目指しています。



中央労福協の活動・事業に関する情報はコチラから

website



X



Facebook



instagram



YouTube



協同組合・NPO の連携で持続可能な地域社会を 第 47 回 Web 学習会を開催

1 月 14 日、中央労福協は第 47 回 Web 学習会を開催し、103 名が参加しました。冒頭、芳野友子会長から新年あいさつを受けたのち、日本協同組合学会会長の杉本貴志さんから「協同組合・NPO の連携で持続可能な地域社会を」と題してお話いただきました。

杉本さんからは、国連が今年を含め二度も国際協同組合年としたことは異例であり、国際的には非常に重要な課題であるにもかかわらず、対照的に日本では認知度が低い現状が問題であるとの提起がされました。

そのうえで、誕生にまでさかのぼって協同組合の歴史を振り返ることが重要だとして、1844 年にイギリスのロッヂデールに誕生した店について紹介がされました。当時のイギリスの労働者が貧困にあえぐ中で、ロッヂデールにできた協同組合は、「ロッヂデール原則」と呼ばれるいくつかの原則を定めており、組合員による民主主義や、インチキ商売に対抗して、優良な品質・正確な計量を行う原則、また、店舗に図書館を併設するなどの教育重視の原則など、競争経済を打破する試みがされていました。

この「ロッヂデール原則」がもとになり、20 世紀型の協同組合が躍進してきたこと、そして、1995 年に定められた「協同組合原則 (ICA 原則)」も「ロッヂデール原則」を踏まえていることを示したうえで、農協や生協など同じ協同組合間の協同をすべきという「協同組合間協同」と、



コミュニティに有害なことはすべきではないという「コミュニティの持続的発展への関与」について、新しく原則として付け加えられたことが紹介されました。さらにこの原則の取り組み事例として、被災地支援や買い物弱者問題が挙げられ、既存の商店街との軋轢の問題など、協同組合単独ではなく、地域を巻き込んだ解決が求められていることが示されました。

このほか、2012 国際協同組合年に行われた国際会議についての紹介や、韓国でできた「一般協同組合」をつくることのできる新しい法律の紹介などがされました。

最後にあらためて、2025 国際協同組合年の「協同組合はよりよい世界を築きます」というスローガンが紹介され、ともに取り組んでいくことが提起されて、学習会を終了しました。

第14回連合・ILEC
幸せさがし文化展

描きたい。
伝えたい。

俳句・川柳
絵画・写真・書道

作品募集
どなたでも応募できます

応募期間

俳句・川柳・写真（データ応募）部門
2025年 **2月3日**（月）－ **5月29日**（木）

絵画・書道・写真（プリント応募）部門
2025年 **4月1日**（火）－ **5月29日**（木）

当日消印・受付印有効

入賞作品は2025年10月以降に開催の展覧会で展示予定

●絵画・写真・書道の部
連合大賞・ILEC大賞 各**10万円**ほか
シニア特別賞（80歳以上）、ジュニア特別賞（15歳以下）

●俳句・川柳の部
連合大賞・ILEC大賞 各**5万円**ほか

作品募集に関する詳細はWEBサイトへ
[幸せさがし文化展](#) [検索](#)



ろうふくエール基金

助成先からの取り組みレポート

静岡県労福協 ひとり親家庭への子どもの食事支援事業



静岡県労福協では、「静岡県ひとり親福祉連合会」が実施している県内の困窮したひとり親家庭を対象に、令和 6 年 10 月 1 日～11 月 30 日に県内の 5 会場(伊東市・伊豆市・富士宮市・牧之原市・掛川市) 300 世帯に食料品の配布と相談会を実施し、助成金を食料品の購入等にに使わせて頂きました。

また、実施会場から遠い地域で支援を必要とされている方へは宅配にて食料品をお送りし、電話やメール、LINE で相談の受付とアンケート調査も実施いたしました。

団体の活動資金が不足や物価高騰、その上、国の助成金

減額等もあり、今まで遠征や宅配などは限られてしまい、遠方の方へ支援が届けられない状況にありましたが、助成金をいただき、多くの方に食料品を届けることができ、ひとり親の声を直接聞き、繋がれたことに大変感謝しています。有難うございました。

当日はこちらから出向くことでいまままで話すことができなかった悩みや生活についての話、子どもの成長に関する話など、様々な話を聞く事が出来ました。今後は、ひとり親会の相談窓口での電話相談、LINE 相談等も気軽に利用して頂けるようお話をさせて頂きました。

利用者からの声

「取りに行くのが難しかった為、宅配はありがたかったです。スープなど温かい食べ物が多く、定期的に内容も良かったです。」「経済的な理由で車がなかったため、なかなか取りに行くのが難しいので自宅近くまで来ていただき本当に感謝しています。」「この地区は情報が少なく、子ども食堂もないので開催して欲しい。」「悩みや不安で眠れない日が続いていましたが、みなさまからのあたたかい食料支援をいただき本当に嬉しく感謝の気持ちでいっぱいです。」「物

価高騰の中で、誰もが大変な中、私達ひとり親家庭を応援してくださる方がいると知り、子どもの笑顔のためにもまた頑張ろうと思います。」「届いた夜に娘たちと一緒に開封したのですが家族団欒の良い機会となりました。色々な方々に支援していただいている事を娘たちに話すきっかけにもなり感謝の気持ちを大事に過ごしていきたいです。」「など、宅配や近隣での開催について喜ばれる声がたくさんありました。

くわしくは「ろうふくエール基金特設ウェブサイト」をご覧ください！

▼ <https://www.rofuku.net/rofukuyell/>

